

アマダイ通信NO. 114

(Tile fish network letter)

2016年 萩麗し

知人・友人各位

準備不足や治安が懸念されたリオ五輪も無事終わる。スポーツを通じて世界が一つになり、友好と交流を深めることは素晴らしいが、期間中テレビ画面がオリンピック一色だったのは困ったものだ。他のニュースを見たいと思って次々チャンネルを変えるが、オリンピックの、しかも全く同じ中身を流しているだけ。おまけに、高い放映権料を払って、採算が取れないという。放映権を買わないテレビ局があってよくはないか？スポーツは見るよりもする方が健康的だ。この夏、69歳、越後湯沢で初めて夏スキーに挑戦した。

◎小池新都知事と小島君・・・予算措置不要の防災対策の提案

小池新都知事の豊洲新市場視察のテレビ画面、ぴったり付き添ってアドバイスする童顔の優男。よく見ると、その後には寮委員長をした1年下、S42年東大三鷹寮入寮の小島敏郎弁護士・青学大教授。一緒に学生運動をした仲だが、在学中に司法試験に受かる。上級職公務員試験も好成績で受かり、大蔵省でなく、敢えて新設の環境庁に入った。小池知事が環境庁長官でクールビズをやった時に、事務方No.2の地球環境審議官。今回、都政改革本部のメンバーの5人の顧問の一人になった。環境庁時代の名コンビ復活という訳か。昔の誼でも時々審議官室に出入りする。の同期で前寮委員長の高見君が主宰する、中国黄土高原緑化のNPO法人「緑の地球ネットワーク」が農水省の緑の羽根募金や郵政省のボランティア貯金、外務省の草の根協力基金、環境庁の地球環境基金などの資金協力を得た際、二人で霞ヶ関を回り、小島君初め、かつての仲間、友人諸兄の御助力を頂いた。

民営化した電源開発が新規事業で始めた、井水利用専用水道システムの営業を手伝う。病院や駅ビル、ホテル、大規模商業施設などに、電源開発のリスクと費用で深井戸を掘り、膜濾過などの浄化設備を設けて水源を二重化、震災などの災害時、公営水道がストップした際も、自家発電で電源を確保、ポンプを動かし、井戸水を利用、事業を継続、併せて、水道料金も節約するという優れもの。これまで、京都駅ビルや大阪大学病院、大阪刑務所、つくば大学病院など、全国で50箇所ほどの施設が稼働中だが、東京では平成13年に都条例で井戸掘りが原則禁止され、東大病院や椿山荘、京王プラザホテルなど、条例制定以前に掘削した深井戸を所有している施設でしか、設備を設置出来ない。

震災時、どのようにして水を確保、都市機能を維持するか？行政も学校の校庭や公園の地下に貯水タンクを設けるなど努力するが、圧倒的に不足、とりわけオリンピック開催中、首都東京が地震に襲われたらどうするか？病院での治療や手術、人工透析どころか飲み水もない、水洗トイレも使えない、阿鼻叫喚の巷が出現する。東京の地下水位が上昇、東京駅や上野駅などが浮上して困っている現在でも、下町などで抵抗が強いという井戸堀の全面解禁までは求めないが、せめて災害拠点病院や帰宅困難者を収容する大型ビル、駅ビルやデパート、大規模商業施設、公共施設、大学などに限って例外的に新規井戸堀を認めれば、地盤沈下の恐れもなく、しかも行政が予算を投じることもなく、民間の費用で防災対策を講じることが出来る。一度都庁に小島君を訪ねたいと思う。

◎豊穡の海と初めての夏スキー

台風一過のお盆休み、ホームコースの埼玉小川カントリーで仲間とゴルフの後、帰省渋滞の終わった関越道を北上。長いトンネルを抜けると緑の山岳リゾート。翌日、信濃川の支流、魚野川の河原でバーベキュー。娘達が地場のスーパーで前日仕込んだ肉や野菜を婿殿がせっせと焼いてくれ、一緒にビールを楽しむ。小1の孫娘の付き添いで水辺を歩き回る。冷たい水が足に気持ちいい。小舟で磯回りする漁師が使うガラス箱を小さくしたようなプラスチックの箱メガネで水中を覗き込み、網を構えるが、魚は見えないようだ。水溜まりにアメンボと群れて泳ぐ小魚の影が見えるだけ。代わって、上流の石を起こしてみるが、小魚一匹出て来ない。豊穡な白神の海、磯の浅瀬で小魚や蟹、海老を追い、貝を捕まえ、アメフラシやイソギンチャクを虐め、モズクまで採った🍄の幼年期を思い出す。

手拭いをバンドで留めた禪一枚、ワッパメガネで素潜り、サザエやアワビを捕り、アイナメを追いかけ、ヤスで突いたのは、いくつの頃からか。お握りと鍋、茄子と玉ねぎ、ジャガイモに味噌だけ持って、家族総出で浜へ繰り出し、石を集めて竈をつくり、女、子供は流木を集めて薪にし、湧水を探して鍋を満たし、野菜を刻んで入れる。男の子は海に潜ってサザエやアワビを岩からはがし、ヤスでアイナメを突き、鍋に入れ、焚き火の上に置いたサザエのつぼ焼きにアワビの踊り食い。豊穡な海の宴だが、一浪して上京するまで続く。プーアな川だ！愚痴ると、皆楽しく遊んでいるのよ！と娘にたしなめられる。ほとんどは東京から来た人間。豊穡か？プーアか？ではなく、要は需要地からの距離か？幸い爺の話に興味を持ったか？孫娘が、来年の夏は爺と豊穡の海に遊びたいと言う。

翌日娘たちと別れ、長短2本のスキーを車に載せ、GALA湯沢スキー場へ。細い突起の無数についた丸い輪の形で縦横につながったプラスチックのマットが初級コースのファミリーゲレンデー一杯に敷かれ、滑りを良くするためか、所々に係員が立ち、ホースで水を撒いている。結構物好きがいる！ファミリーゲレンデーの初心者コースだから、短いスキーで大丈夫だろうと、95センチのウルトラショートスキーで滑るが、横滑りして足元がふらつき、楽しめない。3回滑っただけでロープウェイで下山、あらためて身の長けほどのレギュラーサイズのスキーで滑る。多少の横滑りはあるが、大体イメージ通りにターン、スイスイ滑る。調子に乗って更に10本滑る。2100円の半日券で13本滑り、ゴンドラで下界と雪のないゲレンデーを2往復、古稀にして初めて、夏スキーを楽しむ。

◎女も立ちションした「普通の国」

NHKの朝の連ドラ「とと姉ちゃん」、今回も面白く視ているが、戦中、戦後、今更ながらの厳しい生活。「元始女性は太陽だった」と叫んだ平塚雷鳥が、戦争を経て、女性の権利の前に「平和が大事」としみじみ語る。🍄の物心がついた時、状況は少し好転。だが、飯は麦混じり、教科書や学生服は姉兄のお下がり、破れるとつぎをあてる。衛生状態も悪く、赤痢やエキリ、チフス、日本脳炎などの感染症が蔓延、命を落とす子供も余多。今は乳幼児死亡率も劇的に下がり、女性の社会進出、保育の社会化が進み、病児保育室まである。

少年の頃、女性も道端でモンペを下ろし、着物の裾をまくり上げ、腰を屈め、牛や馬がするのと同じように、立ったままでオシッコをしていた。同年代の都会育ちの友人に聞くと知らないという。女も男と同じように立ち小便したのは田舎だけの、のどかな風景だったのか？そんな田舎も含めて、ウォシュレットが行き渡り、最新の新幹線や旅客機にまで、

ウォシュレットがつく時代になった。おまけに用を足す際には水の流れる音までして、それと分からないようにする機種まである。豊かで清潔、便利で衛生的な生活を楽しめるのも、平和な時代だからこそ。

戦後 71 年、長い平和によってもたらされた豊かな生活だが、アメリカの核の傘の下での平和でもあった。東西冷戦体制が崩壊、開放政策で外資を導入、経済の高度成長を遂げた中国が台頭、アメリカが後退、東アジアの覇権を巡り深刻な軋轢。戦争の出来る「普通の国」に戻ろうという願望が、この国の国民を惑わす。「戦争の出来る国」が、ウォシュレットのついた新幹線やジェット機で、人も資本も街々や国境を軽々と飛び越える 21 世紀の今の、「普通の国」なのか？それは女も立ち小便する時代の「普通の国」なのではないか？

の黄土高原植樹紀行 I ・ ・ (' 1 6 . 8 . 2 6 ~ 9 . 1)

①意外に緑濃く！

8 月 26 日から 9 月 1 日まで、世話人（理事）をする NPO 法人「緑の地球ネットワーク」の、山西省大同市での 25 周年記念黄土高原植樹と北京での記念行事で中国に。久しぶりの中国定点観測。前回 20 周年記念から 5 年振り。北京から西へ 3 百キロ、黄土高原のど真ん中、先の戦争で日本軍が真っ先に攻め込んだ炭鉱と発電の街。トウモロコシと大豆、牛と羊、山羊の貧しい農村、戦後直ぐの故郷秋田にも似たディープチャイナは変わったのか？変わらないのか？どう変わったのか？興味津々。かつて中国の平均耕地面積は 0.6 ヘクタールと日本の農家の耕地面積より狭かったが、最近では離農と都市への人口集中により、大規模化、法人化、機械化が進むという。他方、都市化、工業化も進み、沿海部、都市部から賃金も上昇、世界の工場としての経済の構造転換を迫られ、経済は踊り場にある。そんな中国を定点観測出来るのは嬉しい。


北京着、珍しく青空。遠くの山波まで良く見える。大気汚染はどこに行ったのか？経済不振で生産活動が低調だからか？ウォシュレット付最新型 JAL 機で 3 時間の空の旅。北京東郊の国際空港から学生 8 人を含め 30 人ほどが、大型バスで高速道路を都心部へ向かう。以前に増して渋滞が酷いが、分厚いポプラ並木の緑が目癒す。水不足で、遙か揚子江の水を運河で分水までする北京の緑は貴重だ。6 環まである環状高速道路を 2 環から 6 環まで、順繰りに南西に走る。都心に近づくにつれビルが増え、高さを増し、渋滞が酷くなる。大都会北京を南西に走り、都心部を抜け、環状高速に付けられた数字が増えるにつれ高層オフィスビルが減り、高層マンションが増え、その高さも低くなるにつれ渋滞も徐々に緩和、ようやく車本来の能力をフルに発揮、高速で走り始める。

つれて平地が減り、山がちになる。思いの外、山の緑も濃い。黄色い穂をつけ、高く伸びた緑のトウモロコシ畑の他に苗木畑も多い。経済成長著しく、豊かになると緑化にも金が回るといふことか？聞けば苗木も生産過剰で、値段が下がっているという。鉄にしろ、石炭にしろ儲かりそうだとすると、一斉に設備投資、過剰生産に陥る。経済成長の多寡で党の地方幹部の評価も決まるから、過当競争だと分かっても引けない。苗木は世界中に輸出するという訳に行かないが、鉄は世界中にダンピング輸出、世界の市場を混乱に陥れる。かつての日本がそうだった様に、原料を輸入、安い労働力を利用し加工、世界中にダンピング輸出、鉄鉱石や石炭、石油など世界中の資源価格も乱高下、世界経済を混乱させる。

今回は八達嶺の万里の長城も、北京の水瓶官庁ダムも通らない。高速道路が新しく開通、前回より南下して南の方から大同に向かう。前回5年前と景色が違う。それにしても緑が濃い。等高線のように段を切って植えてあるのが解る。穴を掘って、周りに白い石を魚の鱗のように積み上げた「魚鱗口？」も見える。明らかに植樹の成果だ。背丈は並べて余り高くない。植えて年数が経っていないのか？降水量が少ないから伸びないのか？緑が濃くなれば土地の保水力も増し、保水力が増せば降水量も増え、木も成長する。かつて文明の発展・人口増と共に緑を失ったのと逆の好循環に、世界四大文明発祥地の一つだったこの地は、たち戻ることが出来るのか？途中の太行山脈の長いトンネルの中での、四重衝突事故の渋滞もあり、予定より30分ほど遅れ、7時に大同市の南端、靈丘県のホテルに着く。昼の北京は26度だったが、バスを降りると高原の心地よい涼風が頬を撫でる。地料理を肴に、2.5度の薄い地ビールと、その地ビールを水代わりに交互に口に含む42度の白酒（バイチュー）で頬も赤に染まり、黄土高原も紅く暮れゆく。（続く）

のオーストラリア紀行Ⅳ・（'15. 8. 8～14、クラブツーリズム「オーストラリアの休日7日間」）

⑩父も夢見た母も見た

六日目、ホテルで朝食後、世界遺産ブルーマウンテンズ国立公園に向かう。ケアンズからはシートベルト付き、50人乗り大型バスでゆったり、自由席。片道120キロ、2時間ほどの旅。日帰り観光可能な高原の避暑地へ。シドニーの西、内陸へ70キロほど行くと、北はクィーンズランドから南はビクトリア州まで4000キロ以上に渡って延々と続く山脈、グレートディバイディング、大分水嶺だ。人々が多く住む東海岸線に沿って立ちほだかり、向こう側は乾燥した大地が果てしなく続く、アウトバック。1000mほどの高さで、我が故郷、同じ世界遺産白神山地の足元にも及ばないが、軟らかい砂岩で出来、峰が垂直に切り立つ。海岸線が開拓され、羊や牛の放牧が進み、小麦や綿花が栽培され、より広い土地が必要となっても、誰もこの大分水嶺を越えることが出来ない。が機内から遠くに見た、アメリカのグランドキャニオンのようなと思った、延々と続く断崖、白い崖線はこの大分水嶺、ブルーマウンテンズだった！多くの探検家を拒んできた大分水嶺だが、ついに1813年、3人の探検家、ローソン、ブラックスランド、ウエントワースによって踏破される。探検の傍ら、専門の仕事を持つ有能な3人の男が大分水嶺の向こうに見たのは、無限に広がる肥沃な大平原、パサートス。シドニーの人々は「父も夢見た母も見た」青い山脈に殺到！パサートスの平原で争うように羊を飼い、小麦や綿花、野菜の栽培を始める。パサートスの発見で、お荷物植民地「NSW」は本国イギリスにとって、「老母捨て山」ならぬ流刑地から「宝の山」に大変身。第5代総督マクゥオーリは、内陸部で見つけた川に沿って海に向かうよう探検隊に命じ、ブリスベンやメルボルンが発見される。オーストラリアは今や食糧自給率240%の農業大国、食糧輸出大国。

油分の多いユーカリの木の葉から揮発する油分に陽の光が当たり、ユーカリの木々に覆われた山々が、青く霞んで見えることからブルーマウンテンズの名がついた。ガイドの日本人女性の説明が続く。オーストラリアではユーカリオイルは常備薬で、切り傷、頭痛、

鼻づまり等に効き、洋服の染み抜きにも使う。エミュのオイルはリュウマチや関節炎にいい。ホホバオイルは肌を綺麗に柔らかくし、染みも取る。黒木瞳など日本の女優さんも沢山使っている。宣伝に熱が入り、完全に化粧品の営業マンに変身。オーストラリアに6万年前から住む原住民のアボリジニーは「自分は自然の一部で、自然の中に魂がある」と考え、自然と共生してきた。ユーカリは水が豊富でコアラはその葉っぱから水分を取るのに、水要らずで、乾燥した所でもユーカリの木さえあれば至るところにいたが、白人が入植して以来激減、今や5千頭を切り、保護動物に。カンガルーは沢山いるが、アボリジニーと英国人が交渉中、英国人が「あれは何だ？」と聞いたところ、「カンガルー(知らない)」と答えたところから名前がついたという。肉は低カロリー、高タンパクなのでダイエット向き、ドッグフードやキャットフードにも使われ、皮は軽く強いので鞆にいい、と夕方お土産屋に寄るからか？営業に力が入る。ユーカリの花から採った蜂蜜のプロポリスはガンに効く。オーストラリア人のガンの罹患率は日本人の7分の1だとボルテージが上がる。プロポリス入りの歯磨きは歯周病に効くので、日本の歯医者が競ってまとめ買いし、高く売っているという。●が余命半年の大腸ガンを手術した頃、アガリクスだとかプロポリスだとかのサプリメントがガンに効くと大喧伝されていたが、今は全く聞かないと思いながら、どうせ歯磨きは必要だからと、帰りにシドニーのお土産屋で、一本千円近くのプロポリス入り歯磨きを半ダース買ってしまふ。

今やブルーマウンテンズまでの道路は綺麗に整備され、見える限り、雄大なユーカリの林が続く。所々集落が点在、農地や馬や牛が遊ぶ草場が広がるが、趣味で飼っているだけで、プロの大牧場ではないという。大分水嶺を越えた肥沃な大平原、パサートの広大な大牧場で牛や羊はゆっくりと草を食んでいるのであろう。延々と続く道路に平行して鉄道が走り、所々に駅もあり、長い貨車の列も。シドニーから西海岸のパースまで続くインディアン・パシフィック鉄道。かつてはこの辺りの中心の町ルーラなどでも石炭が採れたが、今はもっと遠くから運ばれるという。太平洋からインド洋まで4千キロ、大陸横断鉄道の旅は6日ほどかかるが人気で、列車に車も積み、目的地で降りたら、愛車を駆って観光地巡りをするという。ブルーマウンテンズの絶景を楽しめるシーニック・ワールドに着き、かつて炭鉱労働者を運んだ軌道を利用したトロッコ列車で、急角度の断崖を降りる。赤いカラフルな車体は座席の角度を三段階に調節、スリルを楽しめる。太古から続くユーカリの原生林を森林浴。点在する炭鉱跡も見学、湯沢高原スキー場のロープウェイのゴンドラのように大きな、足元がガラス張りのスカイウェイで断崖を昇る。伝説のスリーシスターズなどの奇岩、絶壁やアメリカのグランドキャニオンに勝るとも劣らない渓谷美を楽しむ。昼食は中華料理、地ビールのビクトリアを6ドルで楽しむ。周りはチャイニーズで囲まれている。センスのよい小さなショップやカフェが並び、ツツジや梅の花咲くルーラの町を散策。小さなカフェで3ドル50セントで、食後のコーヒーを楽しむ。自然豊かなルーラの町に住み、シドニーまで車で2時間ほどかけて通勤する者もいるという。帰路、広い庭にヘリコプターが駐機する邸宅も。

⑩世界に冠たる！

シドニーに戻り、お土産屋に。中華料理を食べ過ぎたか？バスにほどよく揺られて消化が早かったか？土産物屋の可愛い大和撫子の店員に導かれて、一階上、3階のトイレに。

鍵を開けて貰い、危うくセーフ。駅でも、コンビニでも、パチンコ屋でも、ホテルでも、どこでもトイレ、お尻に優しいウォシュレット付の、世界に冠たる日本のトイレ文化はどこから来たのだろうか？逆に「身内」以外にトイレを貸さない、金を払わないと使わせないトイレ文化とは何なのか？他人に対する思い遣り、オモテナシの心の差か？外国人観光客にもっと日本の素敵なトイレ文化をアピールすべきではないか？そうしたら中国に旅した時も不快な思いをする機会が減り、世界中で必死の思いでトイレ探しをしなくて済む。トイレを借りたからではないが、プロポリス入りの歯磨き粉半ダースとオーストラリア原産マカディアナッツのチョコを買う。ポケットの多い、軽くて丈夫なカンガルー皮の ビジネスバックを探す、使い勝手のいい、ポケットの沢山ついた物はない。

最後の夜はトワイライトクルーズ。海上からシドニーの景色を眺め、OZ ビーフに最後の挑戦。飲み物は全て5ドル。☛一行を除いて、2階まで中国人の団体で一杯。浜風に吹かれながら、グラス片手に船のデッキから眺めるオペラハウスも素敵だ。ハーバー・ブリッジの下を通る。48.8m と世界一の幅がある橋の上を車が行き交い、電車がすれ違う。地元でコート・ハンガーと親しまれるアーチ型の吊り橋のアーチの上で、沢山の人が「スカイウォーク」を楽しんでいる。太陽が沈みかけると、シティの高層ビル群が輝きを増す。暮れ泥むシドニー湾を引き返す。ライトアップされたハーバー・ブリッジの上でスカイウォークを楽しむ人々が、影絵の様に動き、美しいタイルの shell が昼の陽光に白く輝いていたオペラハウスが、沈みゆく陽の光を受け、船出するヨットの如く、茜色に燃える。

最終7日目、暗い内にシドニー空港へ。シリアルとお菓子、牛乳とジュースのお弁当で腹ごしらえ。先ずブリスベンまで、ブルーマウンテンズを横目に飛ぶ。青い山脈の所々から煙。油分の多いユーカリの枯れ葉が乾燥して発火、山火事を起こしているのだ。ユーカリは山火事で周りの木を燃やして駆逐、皮まで燃やし、裸になって猛火に耐えた自身は直ぐ葉っぱを出し、花を咲かせ、実を落とし、発芽させ、テリトリーを広げて行くのだという。ユーカリ帝国主義！ブリスベンで乗り換え、成田へ。青い珊瑚礁と緑の島々の美しい海岸線を飛ぶ。目を覚ますと碧のグラデーションの美しい海岸線を持つ、ジャングルに覆われた、緑の島が見える。噴煙をあげる、高い山も。パプアニューギニアだろうか？オーストラリアには活火山も断層もなく、地震とは無縁だが、パプアニューギニアはそうはいかない。戦前、オーストラリアはパプアニューギニアを委任統治、勢力下におき、連合国の一員として日本占領にも参加、アメリカの要請で韓国と共にベトナムに出兵するなど、イギリス連邦の一員として、未だ女王陛下を戴きながら、イギリス帝国がアジアから撤退後はアメリカの片棒を担ぐことが多い。結果、ベトナムのボートピープルを難民として受け入れざるを得ず、白豪主義、白いオーストラリアに終止符を打たざるを得なかった。各地に溢れる中国人を含め、オーストラリアはどこまで、黄色くなれるのか？(完)

◎少子高齢に伴う諸問題・・・東大三鷹クラブ第128回定例懇談会のご案内

9月の第128回定例会には、前厚生労働事務次官の村木厚子さんをお招きし、「少子高齢化に伴う諸問題」についてお話をしていただくことになりました。2年前の第116回で程永華大使にお願いして以来の、ゲストスピーカーの登場です。村木さんは、私が旧労働省の国際担当の課長時代、1978年に高知大を卒業し、入省して来られました。

その頃村木さんを含む2、3人の新人に翻訳資料の作成のお手伝いを依頼したことがあります。わずかな期間でしたが、正確で早い仕事ぶりに感心したことを思い起しています。その後、私が退官するまで10年足らず、労働省在籍が重なっていましたが、直接同じ部局で一緒に勤務する機会はありませんでした。しかし、小さな世帯ですから、村木さんが控え目ながらバランス感覚に富んだ優秀な職員であるとの噂は伝わって来ておりました。

私が退官した後、村木さんは順調に昇進を続け、2008年7月には、雇用均等・児童家庭局長に就任されました。ところがその1年後の6月、課長時代の部下がひき起した不正事件にかかわったとして逮捕・起訴されることになってしまいました。役所は休職、刑事被告人として収監される憂目にも逢いました。

晴れて無罪が確定したのは、1年3ヵ月後の2010年9月で、内閣府に復職した後厚生労働省に戻り、社会援護局長を経て、2013年7月、事務次官に就任しました。まさに奈落の底から這い上がる大変な経験を余儀なくされたわけですが、その間の苦難が、村木さんの人間としての幅を一段と広げることになったと私は考えています。

次官を退官した直後、今年の1月から6月まで、村木さんは、日本経済新聞夕刊の「あすへの課題」欄の執筆者の1人として毎週火曜日の紙面を担当されました。都合20数篇のエッセイを読ませていただきましたが、身近な話題を含め、その1篇、1篇、飾らぬ文章ながら深い奥行きがあり、村木さんの人柄が滲み出ておりました。私がとくに感銘したのは、国の内外を問わず、恵まれない人々に対する行き届いた心配りです。そして単に言葉だけではなく、出来る限りの支援活動を実践しておられることです。

今回の定例会で取り上げるテーマは、村木さんの所掌した雇用や社会保障にかかわる基本的な大問題です。さらにまた産業経済、財政、地域社会など国政全般を左右する最も重要な課題です。私としては、村木さんのプレゼンテーションを大いに期待しております。

(昭和26年入寮 平賀 俊行 記)

日時：平成28年9月20日(火) 18時30分～21時(開場 18時、会食 18時30分～)

場所：学士会館本館302号室(千代田区神田錦町3-28 TEL 03-3292-5931)

会費：6000円(会場費、夕食代・飲み物代、通信費など込み、二次会別途)

申込先：(有)ティエフネットワーク Email：tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

◎幸せの秘訣・懇談、パーベキューの会

団塊の世代の寮の仲間が集まると、「ウチの息子も一人で」、「ウチの娘も中々いなくて」と、愚痴ることがよくある。お互い上手くマッチングできるといいね!と言いながら、今迄中々実行出来ない。今回、北京の外語大で教鞭を執る独身の津田量君(99年入寮)が帰国したのを機に、とにかくやってみようよということで、8月7日(日)、勝部日出男君(69年入寮)が原宿の自宅で婚活パーティを開いてくれる。

「私たち人間は、色々な活動に日々明け暮れていますが、そんな活動の究極の目的は何でしょうか?経済活動も、趣味の活動も、あるいは読書、あるいは運動、時には宗教的活動、習慣等々、それらも突き詰めてゆくと“幸せ”を求めて、動き回っているのではないのでしょうか?そこで、一度妙齢の男女の皆さんと、“幸せ”とは、そのための秘訣とは、

について意見交換懇談、バーベキューの機会を」と勝部君が「基調講演」、午後から夕方にかけて、若い男女各3名を中心に、楽しく懇談。勝部さん、奥さん、御苦労様でした。

◎老・中・菁で帰国歓迎会

北京の外語大で教鞭をとる99年入寮の津田量君(99年・文Ⅲ・山梨・文)を囲んで、本郷の中華料理屋で「帰国歓迎会」。終わって事務所で二次会。OB5人と現役寮生8人で楽しく交流。言論統制、思想チェックが厳しくなり、南シナ海の領有を巡って中国の領有権を否定する国際司法裁判所の判決が出てから、一層きびしくなっていると生々しい報告。

参加者は、園田 夢之介(2015・文Ⅲ・北海道・北海道帯広柏葉)、横宇 史年(2015・文Ⅲ・愛知・岡崎)、北條 新之介(2015(院)・総合文化研究科 地域文化研究専攻 アジア科 中国・栃木・真岡高→東北大)、青山 絵里香(2016・文Ⅲ・愛知・一宮)、竹内 碧(2016・理Ⅱ(薬学部)・高知・高知学芸)、八野 圭晃(2016・理Ⅱ・兵庫・灘)、濱田 一樹(2016・理Ⅰ・兵庫・灘)、四元 秀斗(2016・理Ⅰ・鹿児島・ラサール)、津田 量(1999)、久保 啓行(1995・文Ⅱ・京都・洛星)、久米 知之(1994・文Ⅰ)、安藤 誠四郎(1962・理Ⅰ・福岡・修猷館)、辰 紘(1965・文Ⅰ 教養学部 教養学科 国際関係論・大阪・三国丘)、干場 革治(1966・文Ⅰ・秋田・能代)

◎味は文化です！

7月9日(土)夕方、三鷹寮でICOM(交換留学生)の送別会、人数も今一、アルコールがないせいか!?盛り上りにも欠ける。場合によっては久しぶり、華屋与兵衛と一緒に行ってとも思うが、8時過ぎに早々退散。

急遽、送別会の慰労と暑気払い、留学生の送別も兼ね、簡単な和食コース料理を、しかも新宿の超高層ビルから、都心の夜景を眺めながら楽しむ会を設定。「味は文化です。簡単な会席料理と我が故郷、秋田八峰町の美味しい日本酒、日本の味、日本の文化を味わって頂ければと思います。自国の文化を知らずして、国際人になれません！」と、16日夕方、西新宿、住友三角ビル49階、居酒屋どんと(住友不動産直営)で寮生との飲み会を設定。

学期末で忙しかったのか?9日の送別会を主宰した院生会からの参加はなく、1、2年生の自治会・MSCの皆さんを中心に、留学生と12年入寮の本郷の学生が1人ずつ参加、🐟を含め17名で和食と秋田八峰町の地酒、純米酒、白瀑(シラタキ)どからを楽しみ、交流を深める。因みに住友不動産の高島会長は三鷹寮の大先輩(S25年、新潟)、小野寺副会長は🐟の秋田県立能代高校の同期生。色々融通を利かせて貰う。多謝！

◎終わりに

近年の中国共産党の大国主義、排外主義は酷い。高度成長に陰りが見え、市場経済化を急速に進めた結果、共産主義のアイデンティティーも希薄化、「中華の夢」という愛国主義にアイデンティティーを求めざるを得ないせいか?南シナ海を含め、歴史的に中国の領土だった所は全て「中華」だというなら、モンゴル帝国が支配したインドやヨーロッパまで「中華」だと主張すればいい。それでは満洲は日本の領土だと日本が主張したら認めるのか?どう考えても無理な主張だ。中国国民の冷静な判断を望みたい。そのためにも両国国民の友好・協力、相互理解の促進が必要だ!再見!